

選抜区分： 学校推薦型(公募制)・特別選抜(社会人)第1期・特別選抜(帰国子女)

科目： 小論文

学部： 看護学部

出題の意図

本試験で、「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」を用いた意図は、対象者である若者が受験生の年齢と同様であるため、自身の感性を含む考察ができると考えた。また、日本と諸外国との比較を通し、グローバル社会に関する知識、多文化共生力と多様性を認める能力も、アドミッションポリシーの主体的な学びやコミュニケーションに関わると考えた。さらに、各設問の意図を読み取り、客観的、論理的に述べることは、看護学を学ぶために必要な基礎学力を問うものである。

[設問1] 評価の観点

1) 設問を正確に理解できるか

図1から読み取れる客観的な事柄の解答を求めているため、問いの文脈を正確に理解し、考察は設問2で述べて設問1は事実のみを書くことと判断できる基礎学力が必要である。

2) 日本および他国の若者層の「自国社会の問題」の特徴を捉えることができるか

日本と他の4カ国を比較し、特徴的な項目と割合(%)を捉えて列挙できる。この際、項目のみで割合(%)の全く無い解答は客観性を欠くため減点となる。

3) 令和5年度と平成30年度の日本の回答を比較し、特徴を捉えることができるか

令和5年度と平成30年度で10%近く差が生じた項目を捉え、列挙できる。

[設問2] 評価の観点

1) 論理的に述べているか

設問1の内容を基にして考察し、記述できる。

2) 知識を基に、テーマに沿って自身の考えを述べているか

グローバルに関する知識を基に、論理的に自身の考えを述べるができる。